

子ども時代の社会的養護の経験と退所後の生活史の分析

—児童養護施設かつホームレス経験者に焦点を当てて—

○ 名古屋市立大学 氏名 谷口 由希子 (5941)

キーワード3つ：児童養護施設、ホームレス経験、貧困の連続性

1. 研究目的

子ども時代の貧困はいかにその後の生活に影響を及ぼすのだろうか。先行研究においてすでに貧困の連続性は指摘されており、たとえば松本（2010）は「貧困は『ある一時点での購買力のなさ』を超えて、生活過程における『不利の連鎖と蓄積』として現象する」と述べている。社会的養護経験者は施設での経験や退所を経て、どのような生活を重ねているのだろうか。本研究は社会的養護経験者の退所後の生活とホームレス経験を射程とする。

社会的養護経験者の退所後の生活困難について、ビックイシュー基金（2010）の調査では若年層ホームレス 50 人のうち 6 人（12%）が「おもな養育者」として児童養護施設と回答している。また、永野ら（2014）は、施設退所後直近の 3 年間でも退所後に施設側が連絡を取ることのできる退所者は 7 割程度（2009-2012 年度）であり、すでに約 3 割が所在不明であることを明らかにしている。さらに連絡を取ることができる退所者の生活状況も司法や医療、社会福祉の介入がある割合の高さを指摘している。

本研究は、子ども時代に貧困や虐待などの理由によって児童養護施設をはじめとする社会的養護を経験した人の生活史を分析することを目的とする。とりわけ、施設退所後にホームレス生活を経験した人に焦点を当てることによって、貧困の連続性を明らかにするとともにそれを断ち切るために必要な方策を考察したい。

2. 研究の視点および方法

本研究は、包摂的支援研究会（代表：山田壮志郎）が実施している「パネル調査を軸としたホームレス経験者への包摂的支援のあり方に関する研究」において回答が得られた人を対象としている（回答者 337 人、回収率 42.1%）。なお、調査対象者はホームレス経験のあるアパート生活者 800 人である。第一に、アンケート項目において「子ども時代の経験」を設定した。第二に「子どものころ、乳児院や養護施設（現在の児童養護施設）で暮らしたり、里親の元で暮らした経験はありますか」に対して「はい」と回答した人について生活史分析のためのインタビュー調査の対象とした。インタビュー調査対象者は 36 人であり、このうち実際に調査を行うことができた 11 人を分析の対象とした。インタビュー調査は対象者の自宅または支援機関において半構造化面接の手法で実施した。

3. 倫理的配慮

本研究は、生活史に基づいたインタビュー調査を実施しており、個人情報保護に最大限の配慮をする必要がある。具体的には次の手続きを踏まえて実行している。第1に、日本社会福祉学会の研究倫理指針に従って研究を遂行するとともに研究の実施前に日本福祉大学「人を対象とする研究」に関わる倫理審査委員会の承認を得ている。第2に、上記の内容について、調査実施前に研究対象者と「研究遂行および研究結果の公表に関する合意書」を結び、研究対象者の人権を遵守すること、調査対象者から調査の継続および公表に同意が得られない場合、研究の遂行途中であっても中断することを書面にて確認している。

4. 研究結果

本研究の対象者はすべてホームレス経験を有している。アンケート調査回答者337人の「15歳の頃の暮らし向き」は大変苦しかった22.4%、やや苦しかった24.0%とあり、貧困の世代間連鎖の傾向を示唆している。「親との離別経験」は11.0%（36人）が有しており、先行研究（ビッグイシュー基金：2010）とほぼ同水準である。年齢と離別経験に対する有意差は見られなかった。ただ、生活史の分析からは時代背景による差異、施設の退所形態では、家庭復帰の経験とホームレス生活の短さに相関がみられた。

5. 考察

社会的養護かつホームレス生活経験者について、第一に現実的な帰省先がなく施設や里親も緊急避難的に頼れる場となっておらず、退所後の援助機関としての認識はない。第二に家庭復帰の経験がある人はわずかながら「頼る場としての家族」があった。生活史の分析からは、社会的養護の経験があったとしても現実的には子ども時代の貧困の連続性があり、そこから脱け出す機会や援助機関がほとんどない状況が明らかになった。

【参考文献】

- 永野咲、有村大士（2014）「社会的養護措置解除後の生活実態とデプリベーション— 二次分析による仮説生成と一次データからの示唆」『社会福祉学』第54巻4号
- 特定非営利活動法人ビッグイシュー基金（2010）『若者ホームレス白書』
- 谷口由希子（2011）『児童養護施設の子どもたちの生活過程—子どもたちはなぜ排除状態から脱け出せないのか』明石書店（2013年第二版）

※本研究は科学研究費補助金 24330179「パネル調査を軸にしたホームレス経験者への包摂的支援に関する研究」（代表：山田壮志郎）および科学研究費補助金 24730485「児童養護施設で生活する当事者の自立生活への移行過程と社会的援助に関する縦断的研究」（代表：谷口由希子）の助成を受けたものです。